



男女共同参画公開講座

「育み はぐくまれ」

神奈川県川崎市でイタリア料理薬膳レストラン「いな田」を経営されている木村まさ子さんが、レストラン経営で痛切に感じる食育の大切さ、ご自身の子育ての経験から感じる“言葉と食育の大切さ”についてお話しします。ぜひご参加ください。

日時 1月31日(土)午後1時30分～3時30分
 場所 市保健センター研修室(2階)
 講師 木村まさ子さん
 (薬膳レストラン「いな田」オーナー)

定員 150人※先着順。

参加費 無料

申し込み方法 電話、FAX、またはEメールで氏名、電話番号をお知らせください。

申し込み・問い合わせ

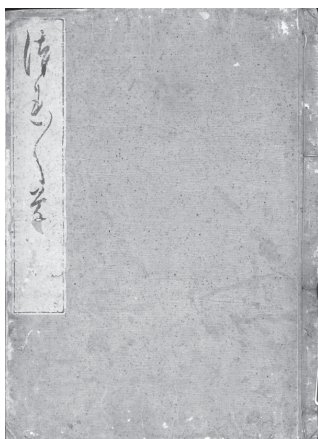
牛久市男女共同参画推進室

☎873-2111内線1631 FAX873-2512

Eメール shimin@city.ushiku.ibaraki.jp

※Eメールでお申し込みの場合は、お手数でもタイトルを「公開講座申し込み」と入れてください。また、Eメール送信後、2、3日たっても事務局から受信確認の返信メールが届かない場合は、ご連絡をお願いします。

※託児、手話通訳、要約筆記が必要な方は、1月23日(金)までにお申し込みください。



↑芋銭愛蔵書『徒然草』
 (小川未太郎氏蔵)

明治23年ごろから使い始めたことになりました。
 実例を見つけられない今は、しばらくの間「通説」によらざるを得ない状況にあります。
 小川芋銭研究センター

北畠健

「芋銭」の読みについては、「いもせん」という人もいるが「うせん」と読むべきだろうと、芋銭自身が語っています。
 晩年、芋銭という号の使用開始時期について、芋銭は「日本画をやるころ」と回顧しています。これに「通説」を重ねれば、号「芋銭」は、

「芋銭」という号は、日本の古典『徒然草』に登場する、芋好きな坊さんにちなんで、芋銭自身が考えました。『徒然草』という本は、芋銭の愛蔵書中にもあり、芋好きな坊さんのページには、付せんが挟み込まれていました。
 次に、肝心の『この頃から、号「芋銭」を使用した』という「通説」について考えます。

聖川 芋銭

再び芋銭を考える③
 前々回、および前回に引き続き、芋銭年譜中の「通説」について考えます。
 明治23年11月25日、第一回帝国議会在が召集される。芋銭は、朝野新聞の画工として、議会の様子を描く。それらは同紙上に掲載された。そしてこの頃から、号「芋銭」を使用した。
 芋銭の年譜や芋銭論などには、おおよそ右のよう